

市議会だより



おらホツの雪あそび
(神代駅東側の田んぼで)

馬そりに
子供と仙北市の
夢を乗せて

主な内容

定例会概要	2 ~ 3 P
一般質問(20名)	4 ~ 15 P
予算審査特別委員会	16 ~ 18 P
17年度補正予算	19 P
請願・陳情・意見書	20 P
自治功労表彰	21 P
編集後記	22 P

3月 定例会

概要

平成18年度予算決まる。
平成17年度
旧三ヶ町村決算決まる。

一般会計総額 183 億円

主な歳出

総務費	27億
厚生費	39億
衛生費	15億
農林水産業費	12億
商工費	7億
土木費	20億
消防費	6億
教育費	20億
公債費	30億

主な歳入

市税	26億
地方消費税交付金	3億
地方交付税	72億
国庫支出金	16億
県支出金	16億
繰入金	9億
市債	20億

十八年度予算審議と旧三ヶ町村の決算審査のため三月定例会が二月十三日から三月二十日まで、実質三十六日間の日程で開かれた。
一般質問は二十人の議員によって行われ、当局と活発な議論がなされた。

平成十八年予算議会終了

調査特別委員会報告書

委員長 戸 沢 清

(副委員長) 藤原貴一
(副委員長) 武藤昭雄

・設置 市議会十二月定例会に於いて議員よりの動議が採択され設置となる。

・委員の定数 議会全員

・特別委員会の構成

・会議

第一回特別委員会 一月二十三日

第二回特別委員会 二月六日

委員四十七名出席、当局が市長、

総務部長以下十六名

・審議の経過

市長挨拶の後、倉橋企画政策課長、藤村参事より現況報告、策定スケジュールの説明があった。

課としては二月末を目標に各施策ごとの取りまとめ作業に入っており、実施計画(案)となるものについては十八年度予算決定後に財政計画も含めて作製となるが具体化するの四月以降になるとの説明であった。

各委員からは在任特例の期間中に大まかな議論をして、新市発展への思いを何らかの形にして二十四名の新議会に引継ぎたいとの発言が多くなされ、具体的には

1、農業

平成十九年に始まる国の食糧農

業基本計画が四ヘクタール以上。二十ヘクタールの集落営農組織に特化される。これに備えた市行政の取組みを急ぐべきだ。その道の専門知識をもった職員チームが必要。

2、観光

田沢湖、武家屋敷など景観だけに頼る観光でなく、お客さんが能動的に『衣・食・住・文化』にふれ体感できる観光とすべきである。

3、施設の統廃合

旧町村の垣根を取り払ってどこに必要かを徹底的に考えて欲しい。費用対効果、地域間の人口の推移などを考えた計画にすべきである。これに対して市長からは旧町村から持ち込まれた建設計画すべて実行できる訳には参らないので、その絞り込みについては各方面の意見を聞き慎重に進めたいとの発言があった。

4、新市役所庁舎建設

委員より分庁舎方式は地域バランスは良しつとも行政の効率から考えて八年後の建設構想は遅きに過ぎる。

市民に迅速なサービス、財政のスリム化を考えた計画の前倒しをするべきであるとの意見が出さ

れ、石黒市長からも財政計画の見直しと建設の前倒しを考えていると表明された。

5、行財政改革

依存財源七十%、自主財源三十%の基盤の上で経常経費比率。公債比率の適正化が求められる。

市当局は職員定数の適正化、組織機構の見直し、経常経費の節減など真剣に取組み、市民が合併効果を眼で見える形に努力して欲しい。

なお情勢の変化。住民ニーズの複雑化に対応できる専門の知識、技術をもった職員の要請が必要であることなどに強く要望意見が出された。

6、その他

イ、第三セクターの在り方
ロ、国道道、内陸鉄道などへの要望

ハ、冬期交通体制の確立
ニ、携帯電話の不感地域の解消

などの意見要望がだされた。

まとめ

合併のテーマは市民生活の安全、安心であり、これ以上の過疎にならない施策を重点に、市民参加、情報の公開など念頭に市建設計画樹立につとめることを市当局に要望し併せて四月選挙で選出される新議会に大きな期待をするとある。当特別委員会の限られた時間での任務を終わりたい。

一般質問



仙北市農業の方向性を問う 社会資本整備のおくれに どう立ち向かうのか

大石 温基 議員



農業問題

質問 政府は農業者の高齢化後継者不足などの解消策として新しい農政改革に踏み切った。

それから従来の価格補償政策から品目横断所得補償政策に転換すると言っているのだが要するに大規模農家(認定農家)や集団経営グループ(法人化をめざす)に集中的に支援すると言っているものであり、仙北市農業を大きく左右するものと考ええる。

良い面もあるが大きな農家にしぼる政策に不満もある。

いずれ国の方針が強く打ち出されると思うが、簡単に規模拡大や集落営農組織が作れるものでも無い。市長の施策方針に『集落型経営体育成』とあるが市長が強いリーダー

シップをもって農家と共に改革に向かっていくご決意の程を承りたい。

社会資本整備

我が家の来客に上水道も下水道も無いと言っていると皆びっくりして帰る。観光拠点都市をめざすならまず市民が自分の住んでいる所の良さを感じてこそ観光客を呼び込む力がわいてくるのだ。まず内側の社会資本整備が大切でないか。

陳情された道路整備もおくれている。学校整備は必要だが庁舎は工夫すればやっていける。生活ラインの整備の充実に市長はどう立ち向かうのかご見解を承りたい。

市長

仙北市は米の主産地であり、売れる米作りを支援したい。県の仙北地域振興局ともタイアップして『勝つて農業』。個性のある農家を支援して参りたい。国の所得政策(品目横断政策)に乗れる組織づくりを支援する。



早い雪どけを待つそら豆の苗

農家の意識改革。戦略的作物の底辺拡大。加工品作りなどに力を入れたい。
社会資本整備はおくれている地域に力を入れていく。
上水道は角館の水源も一部使用可能。神代地区をやることを前提に取り組む。下水道は田沢地区で十八年度着工だ

が神代地区でも準備を進めた。
合併浄化槽(じょうみんせう)を年四十基やるので組み合わせを進める。道路の未整備も新市に引き継がれているので再検討して新たな計画を作って参りたい。

仙北市の

地域づくりの基本は？

細川 俊雄 議員



農業

質問 仙北市の地域づくりの基本の中に農業が確実に組み込まれるべきだ。

今、農水省は農業を守るために死にも狂いがかんばっているが我々現場の者はそれを知らない。今までの様に国とか県が何とかしてくれる時代では無い。

国の新しい農家安定所得政策は農地、水、環境の保全対策と二つが一つになって進められるものであり今後の農業を守っていく施策である。

美郷町は既に『環境保全対策』を農家と共に作製して三月三日に提出できるまで進んでいる。この事業は十アール当たり四千四百円の還元がある。

仮に仙北市田沢湖約二千二百ヘクタールだと二億四千万

円の事業となる。市の負担は約六千万円だが市長はこれを負担しても実施すべきと思うがどうか。

美郷町ではこの事の説明会に町長、上席主幹・上席主任の三人が出席している。当市から誰が出席したのか。

地産地消を市の地域づくりの基本にどう組み入れるかを承りたい。

市長

地域づくりの基本はよそから注目される何かがあるまち作りが基本。品目横断所得対策（新農政）の中に質問の主旨が含まれていると考えている。『水・土地環境対策』にも取り組むため県の振興局、当市、大仙市、美郷町、おばこ農協でチームを作り進めるので当市からも職員を派遣する。アンケートには当市も取り組む。

地産地消も大事と思う。市内のホテルなど大量消費グループとの連携のため『地産地消マップ』でPRする。

教育

質問

地方主催の立場から仙北市の教育基本を伺いたい。又、この三十年間積み立てた教育財産の位置づけを聞きたい。

神代小学校の危険校舎は何より優先して建て替えすべきではないか。

市長

カウンセラーが神代を中心に効果的にやられている話は承知している。神代小学校の安全性については二月末の診断結果を待ちたい。すべて大丈夫との判定で無いことも想定した検討も必要と教育委員会と話し合っている。

職員の意識改革

質問

職員が働きやすい環境を作るべきでないか。職員は良くがんばっていると思う。



冷たい雪の中、頑張るおばこ達

新年度の国保税は？ いわゆる『北浦文化』の振興を

藤原 貫一 議員



国保税（十八年度）について

質問

病気の際は健康保険ほが国保税が高く市民の苦勞が絶えない。

国保税の延滞額が約二億円滞納を理由に保険証返納で短期保険証。資格証明で病院窓口では全額支払いの世帯が約三百五十世帯もあることがそれを証明している。

市民は合併して一年目の新年度の国保税がぐんと上がるのではないかと恐れている。

又、国保基金三億円の内一億円を取崩して予算計上したと聞かぬが仙北市の国保の安定のためには一般会計から繰入して基金を積み増す必要があると思うが市長の見解を承りたい。

北浦文化の振興

質問

合併により北浦と言われる地域が一つになった。北浦文化圏とも言われ、すぐれた文化が継承されているが、これをどう守り、発展させるか承りたい。

『おやま囃子』のすばらしい伝承もあるが『ささら』のように後継者不足が見えるものもある。小学校のクラブ活動に取り入れるなど教育委員会の格別の施策を期待したい。角館の武家屋敷の近くに『おやま囃子会館（仮称）』を作り観光客にお祭りの雰囲気や伝え、心に残る観光と踊り手、囃子方などの収入も考えての施策が必要と思うがどうか。

教員 子供達が故郷を理解し誇りを持つためにも学校と地域の協同でふるさと教育をすすめたい。

質問 北浦地方の方言は県内でも最も『暖かみ』を感じずる。女性がオレなどの発音は整理し、後世に残したい方言集を作り学校でも、取り入れたらどうか。

教員 北浦ことばの良さを残したい。標準語と方言、英語の三つの教育が必要かもしれない。

新市建設計画について

質問 議員の在任期間中の議論の中では実施計画に踏み込むまでは至らず、結局は市長の作業にゆだねることとなり、旧町村の持ち込んだ計画の中からの取捨選択はすべて市長の任にある。後世の批判に耐え得る計画の樹立を望む。

市長 市民生活に密着したもの、地域のバランス、更には財政、ランニングコストを規準に取り組みたい。仕上がりは九月を目指している。

新年度予算を通して 市長の政治姿勢を問う



浦山 敏雄 議員

質問 本市の観光は、本物の体験型観光と冬季の誘客がキーワードとなってくるのが予算を通じて一体的にどう作るか。

市長 自然が最大の売り物であるオールシーズンの観光を目指しているところである。

小正月行事等なお充実させて誘客に努めたい。

質問 自然観光は災害の危険性も高いが防止策の基盤整備となだれ災害のイメージダウンをどうするのか。

市長 危険個所の解消に努め安全を地道であるが全力で知って頂くよう運動を展開する。

また、対策会議を開き多くの意見を取り入れていきたい。

質問 税源移譲が市の財政確保に与える影響と税の収入率アップへの具体策はどうか。

市長 税源移譲に財政がともなっていないので、国に働きかけて影響を少なくしたい。

課職員の市民への働きかけや納税意識の向上に努力していきたい。

質問 除雪について質問する。弱者優先の基本から初動体制は万全だったのか。また、流末処理の不備箇所の改良を求めたい。

市長 全力を尽くしたが万全とは言えない。直営から民間委託など、また急な業者変更等から伝達等不備があった。

点検の上流雪不良箇所等は改良していく。

質問 教育委員会の権限強化について質問する。
教員の評価システムで評価基準の確立と公平性を保てるのか。

教員 新評価システムでは学校目標に対する教員各自の目的設定を定め、判定結果も公開することから、かなり公平性を保てると思う。

質問 体験学習などゆとり教育の良さがありませんが学

力低下で見直しを求められているが混乱はないか。

市長 基礎学力の向上を求められていますが多様な体験をどこで体験するか。学校内、または地域活動かかなりの工夫が必要である。



雪国の宿命、雪崩災害を防げ

人口減に歯止めを

安藤 武 議員



質問 人口減少原因は経済的負担から未婚者があまりにも多い。

結婚は本人同士だからと素通り出来ない社会問題と思うがどうか。

市長 結婚問題は大きな課題ですが行政としては雇用環境の改善で定住者を増やしたい、また保育所、子育て支援センターの充実で子育て環境を整えたい。

質問 定住対策では、多様化する住民ニーズの対応するのはかなり難しいが、行政の効率化だけで対応できるのか。

市長 市営住宅の新設や都市からの定住促進、また、企業誘致などに全力を挙げていきたい。

質問 雇用対策では求人倍率は地方では上がっていない。人口流出をくい止めるには



完成した平和橋

なんとしても雇用対策であるがどうするか。

市長 産業振興条例を作り新卒者の地元企業の紹介や、特殊技能の修得や資格の取得に支援をしていきたい。

質問 道路網の整備について積雪観測地点の位置が問題と思うがどうか。

市長 問題点を見直して適切に対処出来るようにしたい。

質問 平和橋の高さの変更がらなげ起きたのか、又安全対策はどうするのか。

市長 県との協議で決めているので報告と食い違いがあるとするれば再度確認の上、十分な対応をしていく。

質問 池の沢線の道路延長は地域振興に大きく関わるので実現を望みたい。

市長 国道四十六号、一〇五号を結ぶ生活道として重

要路線と認識しているので現地を見ながら検討して行きたい。

質問 旧田沢湖町での岩石窃盗事件での賠償問題への今後の対応は。

市長 この問題も仙北市が引き継いだと思っておりますので、弁護士や県と協力しながら対処していきたい。

定住促進のための具体策は

信田 幸雄 議員



策など取り組んでいく課題は多いが、これらについての考えを伺いたい。

市長 定住促進対策は、少子化対策、雇用対策とセットとなっており県内にも大きな課題として以前から取り組んできている課題である。

質問 仙北市の人口は依然として減少傾向にあり、このまま推移すれば四、五年後には三万人を割り込む事が心配され、重点課題として取り組んでいかなければならぬと思う。

若者の定住には、企業誘致はもちろん、市独自の子育て支援、今ある企業の底上げのための後押し、労働者対策、町に住んでもらうための諸施

を作り、地域を魅力あるものにするため、農業では、一歩進めて原料を加工するなどして、付加価値を生み出す農業勝てる農業を達成するため、行政として今まで以上に支援し力を入れていきたい。この事は、商業工業にも言えることで、今までなかった仕事を作る以外人口流出に歯止めをかけることができない。

だから、これまでの固定観念に捕らわれない、単に待ちの姿勢でなく、新しい職場開拓のための認識を深め、仙北市として、総合計画の中に施策を明らかにしていきたいと思っている。

質問 市発注の工事請負はいずれも指名競争入札となっている、地方自治法の精神からも一般競争入札によるべきだと思いが、何故か伺いたい。

市長 一般競争入札の良さがある事は理解しているが、その業者の適格性を発注者がどうやって判断、判定するか難しい事もあって指名競争入札制度で行っている。

今後、一般競争入札も出来るよう前向きに検討していきたい。当面は、公募型入札等実施し、競争入札に近づけるよう努力していきたい。

新市発展の将来像を問う

田口 達生 議員



質問

田沢湖は自然を生かした観光を展望する仙北市

にとつてシンボリック的存在であるが中和処理など、その努力にもかかわらず水質が悪化してきていると言う。水辺の環境についても、水位の変動は十四メートルから三メートルに改善されたが湖岸崩落対策はまだ道半ば、春山地区のキラキラ輝いていた白浜もその面影が失われてきており、周辺樹木を含め田沢湖全体が輝きを失ってきている今日、その再生が急務と思われるが、その対策と復元のプロセスについて伺いたい。

市長

田沢湖はこの地のシンボルであり、観光のポイントであるが、国策から玉川のいわゆる毒水導入により、環境汚染が進んだことは否めない事実である。

その環境改善のため、各方面の協力を得ながら対策を組

んでいるが、今後とも国にも理解を求めながら、行政の役割の重要性を認識しつつ、更なる対策を積み上げ、この地に客足を向けさせ、来てよかったといえる仙北市にしたい。そのため努力していきたい。

質問

現在、高齢者の雇用対策については、シルバ

ー人材センターでくくっているが、若者の働き職場の確保をどうやっていくのか、当面何をやるのか、例えば、シルバー人材センター的な組織を立ち上げ、その対策をすべきとおもうが、その考えを伺いたい。

市長

無定職者いわゆるニート、フリーター等の社会的現象についての調査結果などを参考にしながら、提案を受け止め今後検討し対策を考えていきたい。

質問

角館武家屋敷は仙北市にとつて大きな観光資源であり、今までの通過型観光から滞在型観光にするため対策を組むべき時に来ていると思う。

お山囃子や伝統工芸品等の体験もあると思うが、私は武

家時代の庶民生活を身を以て感じ取れる宿泊体験を考えてみてはどうかと思う。角館には多くの団体があり、その中で検討してみてもどうか。

市長

武家屋敷は、田沢湖と並んで仙北市の観光ポイントであり、滞留時間をより長くする事は大切な事であり、提言を受け、やるとすればどうするのか、前向きに広範に検討していきたい。

行政改革について



佐藤 直樹 議員

質問

行政改革をソフト、ハードの両面を適格に且つ迅速に進めて行く事が重要だ。が、合併して五ヶ月を経過した現在の分庁舎方式は弊害が多い様に思われる。市長は現状をどのように捉えているのか見解をお伺いする。

市長

合併協議会の段階での建設計画は八年九年目を想定して決めて来ているが、



仙北市観光資源

非効率な所を抱えながらの現状を見れば可能な限り前倒しをして庁舎建設を進めて行きたい考えを現在もっている。

質問

職員による行政改革プロジェクトチームを立ち上げたがこのチームの検討した内容、対策についてお伺いする。

市長

現行の事務分掌の見直しを図り併せて行政改革大綱の集中改革プランの作成作業を進めている。

質問

旧三庁舎の維持管理費が年間約六、七千万かかっている。この状況を考える

と早期建設が行財政改革の有効な手段と思う。早期決断実行が必要と考えるが、又建設方法について、「リース方式」「PFI事業方式」等検討研究すべきと思うが、見解をお伺いします。

市長

出来るだけ早期建設に向けては財源、財政の問題もありません。事業方式を色々な面で比較検討して最終的に決めていきたい。

質問

統合小学校建設による西長野小学校、角館東小学校の今後の利活用について建設スタートと平行して委員会を設立して、その中で利活用等について地域住民の意見を頂きながら進めていきたい。

市長

平成十九年度からの新しい農業政策の対応について

質問

今回の大幅な改革の中で、特に農地、水、環境保全向上対策は大変厳しい条件である。行政としても地域にある二百七十の農業集落に理解して頂けるような説明が必要と思うが。

市長

水田農業構造対策としての集落説明会は五地区五個所で集落推進員を中心と

して説明会を行う。農地、水、環境向上活動や支援としてトータル当たり四千四百円、農地環境の保全を図る。

この制度の内容については別に行い参加者の意見を頂きながら個々の農家の方へ周知徹底していこうと思う。



興奮が冷めぬ若者達

角館のお祭り山車会館の

考えはないか

角野 浩民 議員



質問 観光立市を目指す仙北市として観光客の滞留時間を持たせるためにも角館のお祭りの山車会館の建設を考

えるべきと思う、通年の観光客数を勘案すれば投資に十分見合う入場料が見込めると思うが市長の考えは。

市長 角館の祭り山行事は仙北市としても非常に大きな観光行事、また伝統行事であり、こうした誇るべきものを、その時だけでなく他の時期にきた観光客にも披露できる何等かの場所、施設の必要性は理解している。

旧角館町の議会において平成七年の九月にこの陳情の採択をしており、この問題は新市に引き継がれたものと理解している。

角館の祭りは囃子、山車のぶつけ合いが特徴でありこう

したものを実際に実演できる状態にするのか映像等でカバーするのか今後の課題だが前向きに考えたい。なお角館の祭りに留まらず仙北市内の各地域に残っている伝統芸能の実演等を含めて所管になるであろう教育委員会と相談をしていきたい。

質問 生産調整、減反の続く中で新規開田をしている市民がいるがこのまま放置しては他の農家に悪影響が及ぶ恐れがある。罰則処理などを科すことが出来ないか。

市長 合併前に当事者に自粛を促すため色々話し合いをしたと伺っている。残念ながら不調だった様だ。新規開田に対する罰則規定がなく自粛を申し入れるしか方法がないのが現状だ。

難しい現状だが今後の仙北市、地域振興局の提唱している。強い農業政策に鑑みても粘り強く説得、理解を求めてゆく。

農業集落の将来はどうなる

佐藤 生治 議員



質問 平成十九年度より認定農家四ヘクタール以上、集落営農組合二十ヘクタール以上を重点的に支援すると政府は発表した。

市長 農家は今まで政府の猫の目農政にふりまわされてきた。認定農家と認定農家を含めた集落営農組合の立ち上げに行政はどう指導していくか、またそのいずれにも入れない農家をどの様に手助けをしていくのかを聞きたい。

市長 今の農政の理解をいたさなくことから始めていく。認定農家の方々に地域の中心となっていたいただき、地域をまとめていただきた。

今の政策を受ける側の対応作りが大切だと思う。

質問 消費者が安全で安心して食べていただく為の作物作り、トレーサビリティに加えて、今年の五月から

ジティブリスト制度（農薬残留基準）が施工される。基準値を超えた食品は流通、販売が禁止されるという厳しい制度だ。

この制度への対応と指導を急ぐべきではないか。

市長 農薬の問題は、個人個人の考えでの農薬散布ではクリアーできないと考えている。

そんな意味もふくめて集落営農は大切な事だと思う。散布範囲、何日前使用なのか、農薬使用基準の判断をしていただきたい。

行政としては情報とか、資料の提供をしていきたい。最終的には農家の判断にゆだねるしかないと思う。



使用方法に注意!!

営農組織を組めない 集落の指導はどうする



小野 マサ 議員

時期、水田農業政策、経営安定政策に対する、仙北市の誘導策及び予算措置は十分か。

質問 現在の市の農家数は、認定農業者何人か地区毎に、認定年齢は合併前は差があったのか、現市として統一されているのか、今後増やしていく見込みがあるのかお教え頂きたい。

集落営農組織に手上げしている組織は何軒か、認定農家と集落営農組織として時期対策に参加出来る農家数は市の全農家数の何割位の見込みか、中山間地域で農地が少ない場合の特例規準を市ではどのように考えているのか説明をお願いしたい。

営農組織を組めない集落に対する指導はどうするのかお聞きしたい。
税、経理等についてのパソ

コン教育等により指導を図る必要がある、また、優良法人の視察や講師を招いての事例研修等の計画はもっているのか、人的、金銭的支援がどのようにに予算に組み込まれているのか聞きたい。

市長 農家戸数二千七百二十六で田沢湖約千八百六戸、角館町九百五戸、西木町七百三十五戸認定農業者三百五十人で田沢湖百七十一人、角館町八十二人、西木町九十七人仙北市にいる。認定年齢は今後仙北市として基本構想を策定し統一した考えを示した中で、認定農業者のあり方についても統一化、指導していく。

集落営農組織については、正式に申し込み受けるのはこれからと思っている。農業法人の設立は三戸と聞いている。集落は現在二百七十九あるがその中の三十集落ぐらいは組織化の可能性があるかと現在考えている。営農組織が組めない農家については三つの協議会で統一を図り同じ考え

方の中で進めていく。経営等に関する事については、国庫事業を活用しながら地域担い手育成総合支援協議会を主体にして経理ソフト等の講習会を予定している。先進地視察研修も考えている。

男女協同参画社会づくりに関する進捗状況について

質問 市の行政改革プロジェクトの中の女性の位置

づけは。

市長 次長、部長の幹部職員になって頂き女性の立場としてのいろいろな経験、考え方を反映していきたい。

質問 市で働くパート、非雇用者に対する待遇改善策は。

市長 週二十時間以上の場合雇用保険、週三十時間以上の場合社会保険に加入しています。六ヶ月以上は十日の有給を付与している。

県道日三市線の早期改良、雫田、野田までの県道編入と改良について



門脇 健郎 議員

市長 雫田、野田線、現在改

良中の日三市線に繋がって国道四十六号線に繋がっている西明寺地区、雲沢地区の連絡道路であり、合併して各地域の良さもあるが、各地域の持っている施設を有効に利用できる道路網整備にあつてその合併の意味も生まれてくると考えている。地域間連携の主要道路を整備していく必要があり、そのような観点からも強気に県道編入と道路改

良を要望して行きたい。
国道四十六号線、一〇五号線を結ぶアクセス道路の建設について

質問 二本の国道は角館町、田沢湖を結ぶ線、一方は角館町、西木町を結ぶ国道、西木町と田沢湖を結ぶ最短道路がありません。市民の交流の為にアクセス道路が必要と思うが建設計画があるかお聞きしたい。

市長 仙北市は東西に国道の四十六号線が走り、南北に一〇五号線が走っているとはいえ、地域間が円滑に行き来できるとは言えない状態。両国道を結ぶ道路は、緊急時の避難道路や観光の周遊道路にもなる。ルートに関しては今後の検討課題だが、前向きに整備を考えていきたい。



なぜこんなに狭いの

農業をなぜ虐げるのか

平岡 均 議員



質問 農業をなぜ虐げるのか。三十七年間で減反・転作をやり当時生まれたことは四十歳近くなっている。FAOは二十五年後、地球規模で食糧危機がやって来ると報告している。

そういうことをふまえ、このまま、続ければ市の農政はどうなるのか。どうしていけないのか。市の農業の発展と共に培われた教育文化はどうなるのか。市独自の政策立案はどこに焦点を当てて作られるのか。

市長 教育も文化も農業を通して生まれてきたものが今に伝わってきたものと自身は考えている。国の政策は、農業を産業としてどうするか最近の流れで育成する線びきをどうするか最近の農政である。

世界的にみれば、近い将来低開墾国の人口増加の為、これまでの海外依存から減反政

策が見直され、自給自足の道を歩まなければならない。そうした意味で国内の食料生産の拠点都市としてこの仙北市の農業はあり続ける必要があると認識している。

質問 保育園の入園希望者が増えている。保育園に入れなかった子供たちをどうするか。

幼保一体化へ向けて規制緩和も矛盾をいろいろ含んでいるがそのことも含めて市長の考え方をお聞きしたい。

市長 幼保一体化の考え方や制度が変わってきている。仙北市においても幼稚園と保育園が同じ近くで、同じ育て方をすることがますます必要となってきた。

幼稚園保育園共用化の指針に基づき平成十七年度から今まで特区でしか認められなかった幼保一体の合同活動が出来るようになった。

国、県の動きを見据えながら幼保のあり方を検討していきたい。できるだけ、入れない子が生じないよう対策を考えていきたい。

質問 最近国家に提出された医療法改革は、高齢者を直撃する案である。七十歳以上の現役並の所得のある人は二割負担から三割負担になる。長期入院者は、食費と居住費を負担、介護保険と別に高額医療費の限度額を引き上げる。

介護型療養医療施設を半分以上に廃止する。是医者医療制度を創設する。七十五歳以上の被保険料を年金から天引きする。六十五歳以上の被保険者国民保険料を年金から引く。

これらの医療法改悪は国の改革だからといって済まされない問題がある。市長としてどう考えていくのか。

市長 高齢者医療費については、予防医学の重視、医療費の適正化の問題がある。超高齢化の問題に対する医療制度の改革、予防に勝る医療はない。何れ市長として無関心ではられない問題である。

環境I・SOは、県内では二ツ井町や大館市等が取得している。

質問 環境について伺いたい。

当市での環境I・SOの取得に向けての取り組みについて伺いたい。

また短時間でしかも低価格で手軽にできるEMとぎ汁ばかりし液は、かび防止、ダニ対策、排水溝の浄化、消臭効果、水の浄化、雑菌対策、ペットの招集、植物や植木の育成等多岐にわたっている。

EM菌を活用した学校、プールの清掃も全国各地で実施されているが市長の考え方を聞きたい。

市長 環境問題I・SO一四〇〇一については仙北市としても真剣に取り組んでいかなければならないと思っ

子どもの安全対策は だいじょうぶか

藤原 万正 議員



合併後の基本計画がまだ決まっていないので、取り組み方を検討していきたい。EM菌については十文字町の視察研修をしている。生保内小学校のプールでも調べたことがある。

環境にやさしいということもあり今後検討していきたい。

質問 仙北市も防災に対する意識の高揚を図ると共に、備蓄の状況と避難所とその周知徹底の方法について伺いたい。

市長 防災について意識の高揚を強め、仙北市全体の高揚を図っていきたい。

また備蓄については、旧田沢湖町で三百人分、旧角館町で三百三十人分、旧西木村で百人分である。現在確保されている物は毛布、タオル等である。

この事については今後考えていかなければならない。避難場所については市政に



は施設百十八ヶ所、広場六十ヶ所がある。

いざという時に使えるように整備周知徹底していききたい。

質問 子どもの安全対策について、さまざまな対策を講じているにもかかわらず犯罪が増えている。日ごろの学校、家庭、地域の心を使った連携が必要な時と考えられるがどうか。

市長 子供の安全対策については、関係者の方々と検討していきたい。

公用車のパトロールについても考えていきたい。

教員 通学マップについては車の通らない所から、車が通る所に見直しをしている。

防犯教室については、いけない、乗らない、大声を出す、すぐに逃げる、知らせる、頭文字を取って、いかのおすしとして子供達に伝え指導している。

質問 学校図書館の整備率はどのようになっているのか。

市長 小学校八十五・二%（但し、平成十六年度）中学校六十・二%である。今後も整備向上に努力します。

仙北市の規模に見合った職員数と「余力」の活用について

武藤 耕三 議員



質問 市長は、当選した昨年十一月一日、新聞社のインタビューに新市の職員数について現状では余力があるの、その活用の必要性を訴えているが、活用をどのような形で実行されているのか、お聞きしたい。

市長 合併して市の規模に合った職員数、その人件費の削減が合併した目的の一つとして大きなウエートを縮めている。その事からも最終的必要組織、人数、その中で結果として生まれてくる余力の活用を話してきました。現在行政改革のプロジェクトチームが作業、見当しております。現在公営企業を除いて六百六十人の職員で、分庁舎方式は一ヶ所に集中した庁舎よりは当然ながら職員数が多い形態であり、できるだけスリム体

質の中で制限ができるようにして行きたい。

平成十八年度の人事異動についても減らさずばかりでなく国体関連が近付いてくる年度においては、人数的に必要な部所もありプラスマイナスが生じてくるが、その時期だけ必要な部所への配置、又余力があるからこそできる事業、この余力活用していきたい。

指定管理者制度と地域経済について

質問 雇用情勢が以前と厳しい状況、回復の動きが見られない、公共事業の依存度が高い、この制度の活用が地域経済の活性化に直結するものと思うが、お聞きしたい。

市長 今、定例会に指定管理者制度の適用関係条例を十六議案を上げしており、可決されれば、ほかの三四施設も制度の適用が可能となり、その内三十三施設を管理している団体と協議を進めているが、期間は二年七ヶ月とする予定で、二十一年からは

公募も含めて検討する。

高齢者の心を支える行政について

質問 高齢者への支援策を模索し実行していることは理解出来るが、心の支援策が希薄なため、余命への不安等があると推測されるが、対策についてお聞きしたい。

市長 福祉その他色々の面から支援をしておりますが、その対策としてスポーツ、趣味、又特にボランティア活動を集団で取り組んでいただき、独りでとじこもりになり、相談相手がない、そのような状態にならないようにいろいろな場面、外部の団体等に参加できるように市としても、又社会福祉協議会で行っている、カタルベ会など、各

地区のレクリエーションなどに参加できるように呼びかけ、高齢者方の不安等が起らないような対策を市として行ってゆきたい。



駒ヶ岳をバックに完成したふれあい温泉館

続発する公務員の不祥事 自浄作用の発揮を

熊谷 佳穹 議員



質問 地域センターは住民サービスが窓口として住民と市政を結ぶ必要不可欠な部署である。にも拘わらず同センターには何らの権限も無

市民生活を守る為に

高久 昭二 議員



い。予算権も裁量権も無い。住民の相談に対して「後日お答えします」というのでは一昔前の間接行政サービスだ。早急に住民の相談に対し円滑に進める事の出来る体制にすべきであるがいかがか。

市長 地域センターは、本課が他庁にあり、且つ住民と深く関わりのある業務について、不便を解消するために設けられたもので決して二重構造の行政機構ではない。

質問 庁内に設置された行政プロジェクトは仙北市の大きな変革に向かって組織の見直しを検討するべきものが、現在の体制では事務・事業の軽微な見直し程度しか出来ないのではないのか。仙北市の道筋に大きな改革と方針を示すプロジェクトであるべきだがいかがか。又、質の高い行政サービスも提供するたのめ庁舎内組織が必要と思う

市長 行政改革は永遠の課題であろうと思っている。行革プロジェクトには今は四月一日の新年度に向けての仙北市としての組織、人員配置等、必要の課題を取り上げてもらっている所でありませぬ。これで終わりと言う事ではない。

質問 職員の勤務意欲と自覚については上司の指示命令や監督の有り様で決まる。昨今公務員の不祥事が多く発生している。職員の意欲・自覚を促し、自浄作用が機能できるようにしっかりとした指導が求められているが。

市長 合併により三地区の職員が同じ職場で業務を行っているが、業務に慣れ、他地域の今までと違ったやり方に触れ戸惑いながらも前向きに取り組んでいる所である。指摘されるような事があつたら個々に改善指導、研修等行いそれらのレベルアップを図って行きたい。

質問 内陸線については、代替の検討も視野に入れ、仙北市の方針を明確にして会社へ提言すべきであるが。

市長 内陸線は県より代替えの提案もあつたが赤字額が一億五千万円以内であれば継続可能という事で乗降客八十二万六千六百人の具体的な計画を立て取り組んでいる所でありませぬ。内陸線を存続する方向での努力を進めてまいりたい。

市長 仙北市は除雪を西木町を含めこの度、直営部分を除いて民間業者委託をした。記録的な豪雪や諸般の事情が重なり市民から苦情や注文が殺到した。そのため民間委託のみの手法を改め合併前の西木町のように直営部門も多く取り入れることも視野にいれ検討すべきではないか。

市長 民間委託を導入と豪雪が重なり、市民の皆さんにご迷惑をかけたことをお詫びしたい。また、経費の節減と職員定数の関係で民間委託は、今後も続けていく。

質問 除雪等の経費五万円以上を雑損控除にできることについてなぜ広報やお知らせなどで仙北市民に周知徹底を図らなかつたのか。

市長 雑損控除は確定申告の会場で説明していく。今後は広報やお知らせナビでも徹底させたい。

収納率の向上に努めるべきでないか。

市長 国保税率下げることが、しかし厳しい財政の中では激変を避けた三町村の平均的な考え方の調整ということでご理解を願いたい。

質問 乳頭温泉郷「鶴の湯」温泉の雪崩事故に際し、災害対策本部を設け、四十名の職員が復旧に当たったが、市長はなぜ一週間も経過してから現地に行ったのかその理由もお聞かせ願いたい。

市長 二月十日十二時少し前に災害の一報を受取り、一時には対策本部を作り二時から予定されていた市町村圏議会の会議に出席した。予定された会議が詰まっております。先順位は私の判断で行い現地に行ったのは一週間後である。その間現地とは連絡は密にしていたし、「鶴の湯」さんには電話でお見舞いを申し上げ、観光協会長としてのとった処置に対して感謝申し上げた。

質問 仙北市内でも長引く不況の中自営業者、農家、年金生活者など厳しい生活を余技なくされている。そのため収納率向上もこのままでは多くは期待できない。そのため、基金の取り崩しのほかに一般会計から一部繰り入れ、国保税率を少しでも引き下げ、税負担を軽減し、さらに

市長 仙北市内では今のところ事業を展開するつも

市長 仙北市内では今のところ事業を展開するつも

りはない。

質問 角館中学校のプールを改修し、また、仙北市内の小中学校プール施設を解放できないか。

教員 角中のプールは改修不能である。

プールの学校開放よりも市内市民プールを学校で利用する方が現実的である。旧西木村議会で採択され建設計画にも乗っている。

質問 十九年国体後の施設の活用についてお伺いしたい。

市長 国体馬術場は全額県負担であり、跡地の活用については県と相談していきたい。



各種税の納期に弾力性を もつことはできないか



門脇 彰一 議員

質問 指定管理者制度の良さはなにかについて伺いたい。

市長 公の施設の管理運営に民間の感覚を入れてお客の利便性と経費の削減を図ることが最大のメリットと考える。

質問 内陸線再生支援協議会再生計画が示されたがその運動の詳細計画を伺いたい。

市長 先ず通学、通勤の定期客の利用促進、生涯学習活動とリンクした老人クラブ等の利用促進、幼児や小学生等の野外活動時の利用促進、観光施設や観光行事とタイアップした企画列車や臨時列車の運行、県北地域と角館田沢湖以南一体の観光地の周遊ルートの設定による観光客の誘導によって乗客の増加を図る。また沿線地域の各種団体の利用増加を図るさらに沿線住民の自らの問題であるとの意識の向上等々地道に実施利用拡大を図って行く。

質問 各種税の収納の現状と徴収率向上対策について、九月十六日までの状況で市税が十一億一千九百万円位、国保では八億五千九百万円位、その後市長の報告によると九十数パーセントまで徴収率が伸びているそうだが現実として滞納の繰越や過年度分の未収まである。納税者の負担の軽減策として納期の設定を納税者の都合に合わせてもつと弾力的にできないか。担税力に対する負担の公平性、更なる納税意識の向上対策はあるのか。

市長 病気、ケガ、失業などによる担税能力の低下がないかぎり納期の設定はあるが今後ご指導のように考えてゆきたい。事情により現在も分納に応じているがさらに考えて行く。

質問 小規模修繕契約者登録制度は市の発注する小規模修繕契約のうち競争入札の参加資格のない業者でも契約することのできる制度だが本市ではどうか。

市長 仙北市として四月から導入を図る。あくまで金額は三十万円以下の小規模修繕に限るが情報をあらかじめ市に寄せていただければ対応して行きたい。

神代小学校の改築を 急ぐべきだ

真崎 寿浩 議員



い。新年度は保育園、子育て支援センター共に施設が増となるので通園および在宅の方への支援が充実できるものと考えている。

「元気のある住み良い地域づくりをするために」という観点から三つの項目について質問したい。

質問 子育て環境の支援について、仙北市は旧町村の施策を引き継ぐ形で行われているが、仙北市として独自のものが見当たらない。子育て環境を充実させ、少子化に歯止めをかける市独自の支援体制を図って行くべきと思うが。

国においても児童手当が小六まで、所得制限額の引き下げで対象範囲が拡大される。市ではこれにもバックアップ体制を図ってまいりたい。

質問 神代地区住民は神代小学校の改築と合わせて神代地区の将来の教育環境についても心配をしている。小中一貫校を設立し、独自の特色ある教育環境づくりを目指してはどうか。

神代地区は幼保小中の施設がこれほど接近している所は外にはない。県の教育総合交流事業を取

市長 子育て支援については基本的には旧三町村の取り組みを引き継いで行きた

る。神代地区は幼保小中の施設がこれほど接近している所は外にはない。県の教育総合交流事業を取

り入れ幼保小中連携校の実践地区に位置づけてまいりたい。

質問 仙北市の均衡の取れた社会資本の整備について、旧町村より引き継いでいる要望等が数多い。全体的な改良計画、整備計画を明示しバランスの取れた全体像が必要と思うがいかがか。

市長 道路や上下水道などハード事業では均衡ある整



未来ある子供達に安全な校舎を

備を主眼とし、継続の要望、合併したものが新しく必要性が増したもので重要性のあるもの、緊急度のあるもの等、優先度をつけ進めてまいりたい。

質問

田沢湖地区の下水整備は新年度に始まる田沢農集排事業が終了後、森ノ腰、神代地区に事業着手をしてまいりたい。

職員提案制度の導入を

狐崎 捷琅 議員



していききたいと思う。

子育ての悩みもこの支援センターに話してほしい。

各園には保護者会（学級懇談会）はあると聞いている。

質問 秋田国体は、仙北市を売り出す良い機会だと思

う。前の秋田国体の時は民宿、いわゆるホームステイが大きな役割を果たした。

今回の秋田国体は、仙北市開催競技以外の関係者もこの地にやって来ると思う。それ故、グリーンツーリズムを発展させるよい機会だと思

う。市長は公約としてグリーンツーリズムを掲げていたと思うが、具体的にどのようなようにして立ち上げるおつもりなのかをお伺いしたい。

市長 現在、グリーンツーリズムを掲げている団体は五団体ある。この団体と連携をとってグリーンツーリズムを広めていきたい。

質問 答弁は、いろいろな行政が積極的に関与し、ある程度基盤作りが出来て、ノウハウを示してから民間に移

していく必要があると思うの

で十分検討していただきたい。

質問 仙北市の姉妹都市である大村市では職員からの施策提言を受け付ける職員提案制度を創設したと伝えられている。

職員提案制度は、会社で言えばQC運動のようなもので、行政運営の改善事務能力の向上、経費節減などのあり方について職員に建設的な提案をもらうものである。

審査会で審査し、優秀なのは市長が表彰するもので、職員の潜在能力を開発、再発見するために本市でも職員の提案制度を導入すべきと考え

るが市長のお考えをお聞きしたい。
市長 姉妹都市の大村市でこのような提案制度があるとは知らなかった。非常に興味ある提案なので当市でも検討していきたい。

市長

四月から子育て支援センターが角館保育園内に開設される。行政とお母さん達とこの「協働」のお話も非常に大切なことなのでこの支援センターを中心として展開

また、園で悩み相談できる学級懇談会がある園と無い園があると聞くがほんとうか。

市長 四月から子育て支援センターが角館保育園内に開設される。行政とお母さん達とこの「協働」のお話も非常に大切なことなのでこの支援センターを中心として展開





常任委員会だより



総務常任委員会の付託案件は十八年度一般会計予算の内歳入全般の外に歳出の議会費と総務費。四個の特別会計と七個の条例。この報告では主として一般会計予算の歳入について述べる。

一、仙北市の一般会計予算

総額一八三億八、八〇〇万円であり、十七年度旧三町村予算合算額より十七億四、二七〇万円多い。増額の主な原因は十九年度国の準備費（約七億六千万円。角館統合小学校建設費七億五、七五〇万円。角館駅東地区のまちづくり交付金事業費二億八、〇〇〇万円などの大型プロジェクトが実施されるためである。歳入では市民税は所得税に準ずるので大差なく、固定資産税は土地価格の下落で一割と見込んでいる。

市の財源の七四・一％を占

める国、県の支出金では増えたものに国の所得贈与税が七八％増で二億円。減らされたものでは国の地方交付税が二・四％減で七二億三千万円。県からは合併交付金一億二〇〇〇万円が目立つものである。

又合併により市の福祉事務所が発足したので児童手当、母子支援、生活保護費などに国庫負担金が増額された。財源不足を補うための市の財政調整基金から九億円を取崩し繰入れている。又市債（借入金）総額二十億五七〇

〇万円を見込み、かなりきびしいものとなっている。合併特例債から一億三、二〇〇万円と借入れてこれをふるさと振興基金に積み立てるがこれは今後毎年続けて十三億二、三〇〇万円の基金とし、取崩し型でなく果実型で市民のイベントなどを支援する。

十八年度の当初予算では人件費、扶助費、公債費など義務的経費が四十九％近くを占めているが、平成十六年度よりは人件費で四、八〇〇万円程減少している。然し扶助費が一億八、一〇〇万円の増となっている。

十八年度末の市債（借入金）残高は二二七億一、九〇〇万

円となる見込み。市の財調基金ではわずかに七〇〇万円余りとなる見込みである。

市の財政指数は公債費率一九・六％となり二〇％で赤字号とされ、起債制限比率は十三・三％で期限を受ける二〇％にまだ開きがある。

経常収支比率は九九・七％の見込みで国の指標からは八〇％を超える危険ゾーンと言われているので総体的にきわどい財政体質と言わざるを得ない。

委員会では角館統合小学校の建設場所、工事費の内訳など初歩的な資料が会議の後半に示されたり、又角館駅東地区の事業の費用対効果について当局の説明を求めると、審査の中で当局の事前説明の不足や合併協議などの段階で決定されて新年度の事業費計

上に至ったのか、などがすつきりしない点の質問が多くなされた。

一般会計予算は討論、採決の結果賛成十一名、反対六名で原案の通り可決となり委員長から十七日の本会議で報告することとなった。

特別会計四個は原案の通り可決。条例七個の内市一般職の職員の給与に関する条例の一部改正の件については異論があり、討論採決の結果十四対三の多数で原案可決。その他六個は全員賛成原案可決となった。

なお十二月定例会に県労働組合総連合などから提出されていた『庶民大増税の中止を求める陳情書』は全員賛成で可決し政府に対し意見書を提出されることとした。



統合される角館東小学校

教育民生 常任委員会

平成十八年度一般会計予算 主な質問事項と答弁

問 全体的に補助金カットが多いが予算に盛り込まれない必要と思われる団体にどう対応するのか。

答 市の財政から規準を設けたので精査の上必要なものには出来る限り対応する。

問 老人入浴補助金を減らすのは予防医学の面からおかしいのではないか。

答 継続の要望が多いので今年は三回おこなった。今後は市全体で老人予防を考えていく。

問 老人クラブの補助金は連合会に一本にしてその上で単位老人クラブでその使用道を検討させたらどうか。

答 今は単位クラブに出してその上連合会にも出して貰う。実績報告と見て右ならぬの補助でなく検討してい

問 学校給食に地場産の物を使い体験出来る食育など工夫出来ないか。

答 二十五％位を地場産を使っている。生産者の顔、場所が見えるよう工夫したい。

問 教育相談員、スクールカウンセラーをどうするのか。

答 県の事業で募集が始まるので早く取り入れたい。

問 神代小学校の耐震補強設計結果が出たが危険校舎での勉強についてどう考えるのか。

答 プレハブなど臨時校舎の案もあるし、補強の案もあり新築までの間をどうするか慎重に検討中である。

十八年度病院会計予算について

問 観光地をかかえて田沢湖病院に整形外科の医師がいないのは大きな問題と思うがどうするのか。

答 秋田大学に働きかけをすすめて医師の充足に努力する。

十七年度仙北市補正予算について

問 市民浴場だしの湯の料金上限改正も含め経営の打開

策はあるのか。
答 福祉の面での負担額を限度に三セク・民間での経営も成り立つように考えていく。

問 介護施設への入所待ちを解消して頂きたいが今、どれ位いるのか。

答 清眺苑三十名、桜苑二百十八名、にしき園五十二名である。

仙北市民浴場条例一部改正する条例について

問 指定管理者制度はわかるが上限八百円は他施設と比較して同じく考えるべきではないと思うがどうか。

答 民間等の受託者が付加価値付けての経営も考えている。又、あくまで上限なので市長の承認を求めること

になっている委員会では採決の結果反対多数になった。

教育民生常任委員会に付託された十七議案陳情一を（仙北市民浴場条例の一部改正（否決）慎重審議の上、採択すべきと決定する。



（卒業）夢に向かって翼よ風にのれ

産業建設 常任委員会



問 訴訟問題について最終的に勝ち負けの判断は裁判所である。

負けたときに想定されている三千万円近いお金の負担が市民ということになる。

支払の窓口、方法についてきっちり議論をしたのか、安易に賛成できないので仙北市の考えを伺いたい。

答 当時、この方は企業課に属していて給与は簡易水道事業会計から出ていた。

これまでの予算が水道会計のほうに一般会計から繰り出されて、雑支出という形で支払われている。

一度判決が出たものなので水道から離れたという考えも成り立つかとも思う

し、一般会計になるのか、はつきりしたことはない。

指摘があった事については市長、部長に相談している。

問 シルバー人材センターが若者の職場に影響を与えていないか。

答 若者は安定した職を求めているので、使用者側のほしいときの仕事なので、若者の職場に影響を与えない経営の仕方をしていきたい。

問 農林関係の予算要望○査定であるが、その内容は、夢プランについては、ハウスなどについてかさ上げをしてきたが、今回は県からの補助のみである。

今年度の実績を見て精査していきたい。

畜産導入の関係要望については、一部分しか予算が出来なかった。

担い手、集落営農については、当初予算にはないが、これから進める上で要望していく。

問 今年の大雪に対する除雪の遅れはなぜか。

答 今年度から三ヶ町村の足

並みをそろえるという形で委託を導入している。

田沢湖は二一業者があり、今までの路線、機械、オペレーターからの聞き取り等除雪態勢の把握で、今年は入札していない。

業者の倒産などもあり、オペレーターに対する苦情がでたようだ。

三、四日と続く降雪で初動対応が遅れた。

見回りにについては従来の形に戻して職員二名で全市をパトロールし、降雪量を判断して対応して来た。

雪が落ち着いてからは、トセンチメートルを目途に指示を出した。

今後については、業者の所有台数、オペレータの習熟度の向上、住宅地における排雪場所等の再検討を指示しながら、来年度以降の対応に万全を期したい。

その他に質疑応答が沢山あるが、総括ででた意見要望を報告する。

◎認定農家、転作関係、集落営農、法人に関して、十九年度から始まる新農政に向けた

対策として、行政マンとしてどのように取り組んでいくのか、農家に対して説明また段取り期間等について考慮してほしい。

◎環境問題、残留農薬、トレーサビリティ等でかなりしぼられているが、農家自身が努力していかないと消費者の納得と理解は得られない事は承知している。

ただ、政策にばかりとらわれ、集落、農家を破壊するような事にならないようにブレーキをかけてほしい。

法人等も立ち上げるにしても集落営農にしても、難しい問題がある。

農業委員会で行っている生前一括贈与の問題があり、組合に、土地を提供できないという縛りがある。

そのこと等をクリアしながら、民法等の法律について勉強しながら、農政担当はこれからの農家のため、これからの仙北市のため、尚一層がんばってほしい。

◎予算配分を見ると、観光を目玉に上げている割には決意が感じられない。

観光資源をフルに利用し、テンミリオン計画の達成のため、更なる努力をしてほしい。

◎平成十八年仙北市水道事業未収金が、過年度一千四百万円、現年度一千九百万円、合計三千三百万円となっている。

この回収については不公平感のないよう力を入れて、きびしく対処するべきだ。慎重審議の結果全議案を可決した。

ただし平成十七年度仙北市水道事業会計補正予算については、反対意見があり採決を取り、反対二賛成多数で原案を可決した。



傍聴席

市議会を傍聴して感じたこと

T・Y（神代）

仙北市が誕生してはじめての、年度予算審議をすすめる定例会市議会を傍聴することができた。

一般質問をする議員が、二十人程で、三十七%に当たる方々が登壇するという熱の入れようでありました。私は第一目であったので、質問者のみんなは張り切って登壇する光景を目にすることができ、楽しくもあり、執行部に対する大きな期待すら感じるものでした。

それに比し、実質的に初日と思われるこの日の欠席議員の目立つことには、少々残念であった。

もともと今春は議員選挙の年であり、尻の落ちつかない気持ちも分からないでもないが、定例会の席につくために議員になるのだから、その責は負っていただかなければと思うものです。

そして当局の答弁であるが、質問者の要求は市長であっても、市長は考え方に



ついて申し上げれば良いので、それ以外のことについては主要者（部長等）が答弁をするというようにしたらと、感じたところです。

いくら有能な市長であっても、万般に亘る答弁はできないと思うし、それでも答弁をするとなれば、極めて一般的なものになり、市長の心随が計れないものに終わってしまう虞れも生じかねません。

もつとクールに、そして市が目指す方向が見えてくるようなものであつてほしいと思います。

質問者からは、少子化をめぐる人口問題、子育て環境をめぐる対応等出されていたように思いましたが、これら根元にあるのは教育だと思えます。

加えて議員の地域における世話活動であらうかと思えます。双方が機能した時、必ずや人口も増加し、地域産業も盛んになるものだと思います。

地域づくりのために、市当局と今後選ばれてくるであらう、議員各位の更なる研鑽と度量を期待する一日でした。

十七年度 三月補正予算

仙北市一般会計補正予算他、特別会計補正予算（集中管理・下水道事業・集落排水事業・浄化槽事業・国民健康保険、介護保険、生保内財産区、田沢財産区、簡易水道事業事業、病院事業、水道事業）が補正される。



請願・陳情・意見書

各常任委員会に付託された請願・陳情について、各委員長から審査結果の報告がありました。

陳情

採択されたもの

- ・ だしのこ園周辺の歩道整備に関する陳情
- ・ 障害者自立支援法に基づき事業推進について
- ・ 角館さくら協同作業所への継続支援について
(お願い)



一般会計予算に修正動議提出される

角館駅東地区のまちづくり事業費を減額して予備費に

一般会計予算の採決の前に藤原貫一議員他六名の議員から修正動議が提出され無記名投票の結果、修正案に賛成二十三票。反対票三十票。修正案は否決となった。

藤原(貫)議員の提案理由は

- 1、角館町市街地区の『まちづくり交付金事業』は賛成。予算はそのまま認める
 - 2、駅東地区の同事業は今年度事業費二億二、八十二万円。(完成まで十三億一千万円)を凍結減額して、その額を予備費に増額する。
 - 3、駅東地区の田を買収して道路や七千平方メートルの広場を作る事業は『投資対効果』が認められない(駅東乗降口は立消え)
 - 4、仙北市の行政の中心地は旧三町村住民が納得する地域選定を優先し、そこに先行投資するべきでないか
 - 5、市の財政基金(貯金)がわずか七百万円余り。極めて財政難の時無理して実施する事業ではない。
- などであった。修正案は否決となったものの今後の市建設計画に一石を投じた形ではある。



修正動議が出された角館駅東地区

自治功勞表彰 及び 感謝状



田口 喜義 議員

秋田県町村議会
議長感謝状



稲田 修 議員

全国町村義会
議長会表彰
議員30年以上在職



細川 俊雄 議員

全国町村義会
議長会表彰
議員30年以上在職



山岡 洋悦 議員

全国町村義会
議長会表彰
議員30年以上在職

人事案件

人権擁護委員

仙北市田沢湖卒田

字荒町九番地一

石橋 正子

仙北市西木町松木内

字小滝一二七番地

門脇 茂巳

仙北市西木町上松木内

字中迫九七番地

小西 範子

仙北市助役定数条例
制定について

仙北市収入役の
事務を助役に兼任の
させる条例制定に
ついて

この二件が当局より提出
されたが、総務常任委員会
に付託され、継続審査とな
った。

控室風景

最近、公的施設は、禁煙の場所が多くなってきた。ここ仙北市議会開発センターロビーも例外にもれず、最近禁煙の紙が貼られた。

タバコを吸う議員は、玄関の外で吸わなければならない。

これも、健康志向の時代の流れとしてやむをえないことだろう。

「この財政難に我々も市に二億円近いばこ税還元金に協力してるんしどもな。」などといいながら吸っている議員もいた。

市民の健康を考えれば吸ってほしくないし、財政を考えると大きな声では言えないが、でも、やっぱり健康が一番だしな。





子供だと思ってあまくみるなよ!!
第2回雪中野球大会（角館東前郷）

編集後記

『人生の先に道はなし、
人生の後に道はできる』

『人生は楽しい事もあり悲しい事もある、誰も先の事はわからない、一日一日を大事に一生懸命生きていくことが大切であり、そうする事でその人、その人の人生にすばらしい道ができる。』

平成十七年度仙北市誕生の年、早い時期からの雪に加え今まで見たことのない大雪、忘れることの出来ない歴史に残る冬である。

この度の市議会だよりは時間のない中、委員の方々の協力の元、いち早く市民のみなさんに見ていただく為、短い時間にまとめあげた関係上誤字、脱字等あるかもしれません。ご理解をお願いいたします。

在任特別期間も終わりに近付き、私達編集委員は市議会だより二号の完成を見て、新しく当選されます市議会議員の方々にバトンタッチする訳ですが、読む市民の皆様方の立場になり、より見やすい市議会だよりが作成されることを期待し、仙北市の明るい情報が市議会だよりに掲載されるような市政に夢と望みを託し、また市民の方々の幸せを祈りながら編集後記とします。

佐藤 生 治